

こうもと げん た
光本 玄太 さん

JICA 海外協力隊 2015 年度 1 次隊

派遣国：ラオス 職種：青少年活動

2021 年 8 月 22 日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

学んだ優しさ 人生の糧

2015 年に大学を卒業し、そのまま国際協力機構（JICA）海外協力隊に参加した。赴任したのは東南アジアのラオス。南部のサラワン県子ども文化センターで、子どもへの情操教育（感受性や心を育む教育）とセンター職員への指導を担った。日本での就労経験がない中でどんな活動ができるか、期待と不安を胸に抱いていた。

当初、活動は全くうまくいかなかった。音楽指導をするはず

が楽器はどこにもない。職員は私をただの研修生と勘違いしており、私の提案する活動に協力してくれるそぶりはなかった。「何のため新卒採用を捨ててまで協力隊に参加したのか」。思い悩む日々だった。状況を変えてくれたのは、赴任してから半年後にやってきた新任のセンター長（40 代男性）だった。

彼は私の提案する活動に理解を示し、いつも笑顔で手助けしてくれた。活動に悩んで落ち込んでいる時は、わざわざ休日に車を出して観光に連れ出してくれた。たどたどしいラオス語を話す、二回り近く年下の日本人と、対等に向き合って仕事をしてくれたのだ。おかげで活動は徐々に軌道に乗り、2 年間の任期を全うできた。

帰国後は、一度の転職を経て、現在は音楽関連の団体に勤めている。国際協力を仕事にすることはなかったが、協力隊に参加したことで、自分にとっていかに音楽が重要であるかを再認識できた。そして、協力隊で得た経験や価値観、センター長から学んだ「他人への優しさの持ち方」は、私の仕事と人生に大きく生きていると感じる。



授業で習った英語の歌を家族に披露する子どもたち